

料金後納
郵便

やまもり通信

ゆうメール

NO. 254 2025.3 NPO法人恵那山みどりの会



12/22 第21回「門松づくり」を開催 於:本町公園

今回から役員によるリレー投稿が始まります。

第22回「竹林整備とタケノコ掘り」開催 4/20(日) 千旦林竹林にて

リニューアルホームページ

恵那山みどりの会

検索



「樹木が地球を守っている」を読んで
河内龍一

ドイツの元森林管理官にして、現在は自ら設立した森林学校でイベントや林業従事者向けにコンサルティング活動をしているペータ・ヴォールレーベンの著書「樹木が地球を守っている」(早川書房)のまえがきに『森の運命と人類は分かちがたく結びついている。この言葉は比喻としてではなく、文字通りに受け取っていただきたい。(中略)樹木は現在進行中の気候変動を柔軟に乗り越えられるだけの効率のよい社会的共同体を形成している。それだけでなく、二酸化炭素を吸収し、その能力はどんな科学技術よりも優れている。したがって、森を活かすことは人類にとって最善の選択肢である。また、樹木には周囲の気温を下げるだけでなく、雨量を適切な量に増す働きもある。』と。

さらに樹木の知恵の章では、樹木が気候変動に対処するために落葉行動を起こしたり、木(ブナ)同士で根で水分栄養調達を共有していることが書かれている。

人類は長い歴史の中で、地球の変化に順応するよう遺伝子レベルで変化してきたが、樹木の生命スパンは長く、人の様には小刻みな変化はできないが、自らの知恵でその生態を維持してきていることを本書では教えてくれる。私たちは木の営みを見ずに、木を伐ることだけに目を向けているが木の生態というか心を知ると、もっと森を豊かな心で森を感じ取れるなあと感じた。このことは子供たちや一般の人にも、もっと森を身近な存在として感じてもらえる態度だと思える。

木の名前や伐採技術を懸命に覚えようとしてきたが、肝心なことが分かっていないことに気づいた。もっとなぜ此処にこの木があるのか、動物や植物があるのかないのか、

か思い始めると楽しくなってくる。まだこの本を読み始めたばかりだが、森の研究者であり、森林管理者でもあった著者の卓見にもっと触れたいと思う。ドイツ林業は今後の日本林業にとって参考になるといわれているので、皆さんも機会があれば読んでみたらいかがだろうか。

当会の活動場所に茄子川地内に「なすの森」という雑木林がある。この地は「ギフチョウ」(準絶滅危惧種)でも巷間有名である。我々もつい最近まではよく知らなかったが、時期になると愛好家がよく訪れているので知ることとなった。なすの森を整備保全することがギフチョウにとって良いことなのか、森との環境の中でもっと知見を深めたいと思うので、今年の私自身の課題としたい。



森へくさだよ

実績と予定(現状報告)

十二月、一月の作業はありませんでした。

十二月に依頼のあった二か所の調査を実施しました。

一か所は手賀野で、依頼者の所有地ではありますが、敷地外で河川に面している所のヒノキとモミジ各一本の伐採搬出です。二月に入り、降雪も有ったりして作業予定は三月に先送り、調整中です。

二か所目は川上(かおれ)で、敷地内の広葉樹ですが一m程の所で三本に株別れしている高木です。一箇所目と同様調整中です。

一月に昨年伐倒した駒場の方から追加伐倒の依頼があり、調査確認をしました。昨年同様大径木のナラ二本と枯ナラです。先に箇所と同様二月で調整中です。

外に未受託で、調査済み一か所、調査中が一か所です。

【定例作業日誌】

森林資源活用部

伊藤 守

一月二十八日(火) 曇り

七人 薪作り

二月十一日(火) 晴れ

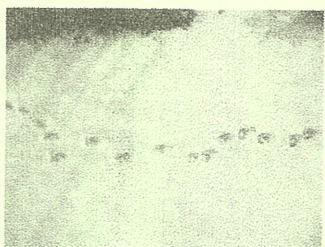
七人 薪作り

薪作り

薪販売は順調に進み今季ほぼ完売しました。何時も購入される方、有り難うございます。薪の乾燥場所が広くなく、購入者の要望に十分応えきれないのが心苦しいです。今冬のように寒い日が続くと、薪が足りているだろうか気に掛かります。

薪の販売により置き場のスペースが出来、薪づくりが始まりました。新材は、昨冬切り倒した物。玉切りし、屋外にシートを掛け保管していたが菌類が入ってしまった。朱色のペンキを流

した様なもの、黒い疣状の物、白色のキノコ類が繁殖した。うちの薪は、きれいだ、わざわざ名古屋から買いに来て下さるお客さんもいるのに、薪の中にシミが出来黒くなってしまった。残念!



アニマルトラック

シベリアに高気圧、北海道の周囲に低気圧が二つ三つ出来る典型的な冬の気圧配置になると、日本海に筋状の雲が幾つも発生、シベリアからの冷たい空気を連想する日本海寒帯気団収束体(CPN)と云う新しい用語も使われ大雪警報が発令されます。高速道路・主要道路も交通マヒを避ける為予備的通行止めも行われます。

今冬は日本海側、東北や北海道の山地ではどこも積雪量が非常に多くなっています。これも温暖化の影響らしい。日本海の海水温が高く、大量の水蒸気が発生し、大雪を降らせているとのこと。

雪の降り積もった時の楽しみを見つけた。動物の足跡探し。晴れ間を就いて長靴を履き、誰も通っていない所を歩く。

道路の左側を足跡が左右に揺れながら付いている。その左に長靴の後。これは犬と一緒に散歩の跡。休耕田へ行く二つの蹄跡、これはイノシシかな。丸い跡が蛇行しながら付いているのはタヌキらしい。

誰も通っていない所を歩くのは楽しい。詩の趣旨と関係ないが教科書に出してきた詩を思い出しました。

僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る ああ自然よ 父よ！

雪の中のキノコ



エノキタケ

雑木林窯で雪の中から見つけました。モヤシのような栽培種とは違い冬に発生するキノコです。

投稿募集します

今回から役員からのリレー投稿を掲載します。

皆さんからの、近況、例えば趣味活動（登山、俳句、合唱など）楽しかったこと、困っていること、当会へのご意見などなんでも結構ですので投稿をお願いします。

この場で皆さんの近況をお互いに知ってもらえればと思います。

この通信が皆さんの広場となれば幸いです。



門松づくりとどんど焼き

河合博臣

一般19組57名・スタッフ14名
12月22日（日）

新しい年を迎える準備、恵那山みどりの会恒例の門松づくりを開催、中津川市本町公園で午前10時〜12時の時間帯で実施し、19組（57人）参加で賑やかに開催ができました。昨年はミニ門松が2組でしたが今年は5組で、初めて参加の方が3組でした。また、門松のフルサイズ（高さ約80センチ）は例年参加される方でした。門松を家族で、夫婦で、お友達でと「巳年」を迎える準備ができました。スタッフは昨年竹を固定する縄を結ぶための垣根結びの練習成果を指導できる機会でしたが、うまく指導できないところがあり、事前の結び方の練習の大切さを反省したところがあります。スタッフは、昨年と同様に結束バンドで仮締めし、縄で結んで仕上げました。「巳年」が家内安全等の願いを込めながら仕上げることができました。



家族でミニ門松できました



夫婦で力作の門松



仕上りが楽しみな作業風景

「どんど」

一般3組4名 スタッフ10名
25年1月11日
年末の門松づくりを受けて、今年も「どんど」を開催しました。



門松づくりのワークショップ(恵那銀の森)

河合 博臣

一般21組 51名

スタッフ 6名(2日間)

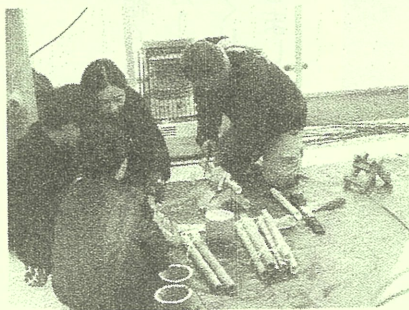
銀の森スタッフ 2名(2日間)

恵那銀の森イベント担当者から「12月29日と30日に銀の森でミニ門松を作るイベントを実施したいのでご協力をお願いしたい」との連絡があり、打合せの結果、ミニ門松10組/日*2日と花飾り10組/日*2日を有料(2千円/対)にて実施することになりました。

銀の森では29・30日におせち料理の販売をするので、希望するお客様にミニ門松を作るイベントを開催していたが、その方たちができなくなったので恵那山みどりの会にお願いできないかとの依頼でした。イベントの担当者は、前年にみどりの会開催の門松づくりに参加し、この活動を知っていたので依頼したとのことでした。門松づくりを続けて来た活動が市民の方に知られていることで少し自信となった次第です。また、主な他の団体への活動は、坂下高等学校で竹林整備と竹工作・花炭づくりの出前講座や

子供会では工作・川遊びのお手伝いなどイベントの依頼にみどりの会の活動で来たことをうれしく思います。また、他の団体からの依頼等に対して協力できれば幸いと思っています。

恵那銀の森は、岐阜県恵那市に位置し、人と森を結び、豊かに共生しつづける社会を目指し、「自然」と「食」を楽しむ総合施設です。



《リレー投稿》

そして職人が消えた

副理事長 増井一義

丁町は山に囲まれ林業が盛んであるが他にこれといった産業がない。林業をもっと活性化するため大工を増やそう、となったらしい。中学を卒業した多くの若ものは丁稚になった。大工は増えたが地元にはそう仕事がなく彼らは町へ出た。

名古屋近郊はベッドタウンの建設ブームで大手ハウスメーカーに雇われていった。軸組み工法ではなくパネルを組立てる現代工法を覚えた彼らはやがて独立し名古屋で成功するものもいた。名古屋では評判も良いらしい。しかし地元の評判は散々だった。

あいつらめっちゃくちゃやて、桧の家を売りにしとるけど桧なんか一本もあらへん。みんなサワラと外材やという。あいつらのおかげで丁町の大工は手抜き大工と評判をおとした、と困った顔をする。林業の活性化を狙ったこの目論見は外れた。大工は腕の見せ所を失い製材屋

は廃業し、林業は更に衰退し 山は荒れ 柚人はいなくなった。

中津川の市有林は部分林と割山がある。割山は「芝刈り山」ともいわれ地域で管理していた。薪、炭が必要なくなり拡大造林もあって多くの割山は桧山に変貌した。其の後材価の低迷とともに林業は衰退し放置林と化し多くの地域が返上したため一八、一九、松田区のみが最後まで残った。市はこの割山の間伐をするため調査に入る、大変な労力で山主に協力依頼があった。山境を確認し仮杭を打ち本杭を打つまで山主と三度立ち会わねばならない。当区からは作業に参加する人はなく私だけであった。そして山地図は完成し割山は部分林となる。

普段 人の山に入ることはなく割山の全体像も知らなかったが、幾度か山に入ることで理解できた、そしてやりきれなく悲しくなりました。

未だ幼かったころ両親たちについて山に入り植林した記憶がある。その桧が伐期を迎えている、手入れしていれば良質の材になったのに。かろうじて当時を

知る私には見るに堪えなかった。

かつての林道は荒れ間伐しても出すことができない。多くの山主は孫の代になり関心がなく市に帰ってしまった。

この頃特に気になることがある。私の家の周囲でもまだ使えそうな空き家が解体され跡地には今どきの家が建てる。そのほとんどが集材材、又は米松か米ツガのよう国産材を使う家は見かけない、その主原因は桧が高価なだけではない、既に十分乾燥しているため養生期間ではなく季節を問わず建てられるため工期を短縮できる。見栄えよく利益率が高い。国産材の生木は絶乾率が高く最初の夏エアコンを使うと偏芯するが外材はその心配がないため電動工具を多用でき、大工がいなくても家は建つ。現代の家は耐久消費財ではなく使い捨てになっ

てしまった。
あの割山の桧たちは行き場を失っている。CO2を排出しながら持ち込まれる外材ではなく地元材を活用した、空調ありき ではなく人にも環境にもやさしい家はもう無理ですか？

2025年 3月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
2日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
9日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
11日	火	9:00	定例作業日	福岡薪小屋	会員・一般	
17日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
23日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
25日	火	9:00	定例作業日	福岡薪小屋	会員・一般	
26日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	

4月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
4月 20日	竹林整備とタケノコ掘り	千旦林辻原竹林	
5月 18日	2025年度通常総会(予定)	調整中	

編集部連絡: 原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に掲載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者: NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)
 メールアドレス: midorinokai@wine.ocn.ne.jp

～^{ねが}希望をともに～

恵那山みどりの会は
 緑豊かな里山づくりをめざし
 木の価値をその 利用として
 炭焼や しいたけの原木をつくり出す
 種拾いや 植樹をします

未来を担う子どもたちのために
 森の学校は「ほっほ」を開きます
 自然をとりもどしたいという人々の願いは
 強まっています

経済優先の社会と別れ
 自然とともに生きる 豊かさを
 求められているのです

恵那山みどりの会は
 そういふ人々と共に
 生きたいと 考えています

文・書 太田光昭

2025年 4月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
6日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
8日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
13日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
20日	日	10:00	竹林整備・タケノコ掘り	千旦林辻原	会員・一般	
21日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
22日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
23日	水	13:30	通信編集会議	なすの森	担当・役員	
27日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
30日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	
30日	水	13:30	通信発行	事務所	担当・役員	5・6月号

5月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
5月18日	2025年度通常総会(予定)	調整中	
未定	苗木城祭りワークショップ		

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に記載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)
 メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp